

教育動向

98年8月～10月

8・6 学級編成弾力的に運用

中央教育審議会（文相の諮問機関）の地方教育行政小委員会が五日、小中学校の学級の数や教職員の配置について、いまの学級編成基準の上限として定められている四十人とらわれず、都道府県や市町村の教育委員会の判断で弾力的に運用できるようにすることで合意した。いじめや非行の低年齢化が問題になっている学校に教員を重点的に配置し、現場の実状に応じた少人数学級が実現できることになる。

（朝日新聞）

8・7 岩船の中2男子自殺、サッカー部内でいじめ

六日午後二時半すぎ、岩船郡内の中学二年生（一三）が自宅で首をつっている。岩船広域消防本部に通報があった。同本部の救援隊が着いたときはすでに死亡していた。同中学を管轄する教育委員会の教育長の話によると、A君はサッカー部員で部活動の仲間からいじめを受け

た。しかし、その後六月に、親と教師を含めた三者の話し合いが持たれ、元気に部活動に加わっていたという。五日も練習に参加していた。

（新潟日報）

8・7 大学生の就職率、最低・小・中学校不登校過去最高

今春、四年制大学を卒業した学生の就職率が六五・六％と前年より一ポイント下がり、実質的に戦後最低になったことが六日、文部省の学校基本調査速報でわかった。一方、九七年度中の一年間に、小中学校を30日以上休んだ不登校（登校拒否）の子どもは、一万一千人増えて十万人にのぼり、初めて十万人を超えた。前年度比一一・七％増と急増傾向が続いており、文部省は今秋、初めて元不登校者の追跡調査を始めることにした。

（朝日新聞）

※ 新潟県の不登校児童・生徒は小学生全体の〇・三五％（前年度〇・三四％）、中学生の二・一一％（同一・八七％）。

8・9 県内の大学進学率初の30位台

九八年度大学等入学者選抜試験で本県の大学進学率が三三・八％となり、全国

順位で三十八位になったことが、文部省の学校基本調査で分かった。三十位台に入るのは本県では初めて。

（新潟日報）

8・27 環境ホルモン溶出可能性食器、小中学校の4割使用、27市町村で中止

内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）が溶けだして人体に影響を与える可能性が指摘されているポリカーボネート（PC）製の食器が、学校給食のある全国の小中学校の約四割で使われていることが二十六日、文部省の調査で分かった。本県では全国平均をやや上回る五割近くの小中学校でPC製の食器が使われている。全国の自治体のうち二百七市区町村が安全性に配慮して学校給食でのPC製食器の使用を既に中止した。

（新潟日報）

9・1 99年度国立大定員、10万人割る

文部省は三十一日、九九年度の国立大・短大と大学院の入学者定員の増減を発表した。新潟大学では五学部で合計七十一人が定員削減されたほか、医学部保健学科（定員百六十人）の新設に伴い、医療技術短期大学部（定員同）の募集は九九年度限りで停止される。全国の大学

の定員は九万九千八百九十九人と三年連続で減少。一方、大学院は社会人の受け入れ枠の拡大や研究機関などとの連携の重視などで修士・博士課程合わせて四万四千二百四十三人と過去最高となった。

(新潟日報)

9・12 県公立中高一貫教育検討委員会
配置のあり方で論議

中高一貫教育導入の方向性を探る「第四回公立中高一貫教育検討委員会」が十一日、新潟市で開かれ、本県での配置のあり方などについて意見が交わされた。これまでの会合では、中高一貫校の得失などを討議、中でも「教師も生徒もゆとりを持った教育が実現できる」などの中高一貫校の利点を挙げる声が多かった。この日は教育機会均等の観点に立つての中高一貫校の配置のあり方について論議した。

(新潟日報)

9・12 校長の権限強化が答申に

中央教育審議会は十一日、小中学校、高校などの職員会議を校長の補助機関として位置づけ、校長を補佐するスタッフの拡充のため、主任制を抜本的に見直す

方針を固めた。中教審はこの答申で、学校運営の権限を文部省や都道府県教委から市町村教委や学校に移し、個々の学校の裁量の範囲を広げて、地域住民の参加を進めるよう提言する。職員会議の位置を明確にするのは、校長の権限を強めて、保護者や地域住民に対して、校長を学校運営の責任者として明示することを目指したため。

(朝日新聞)

9・16 不況風 高校生を直撃

先の見えない不況が、高校生の就職戦線を直撃している。来春卒業予定の県内高校生への県内企業分の求人、七月現在で六千三百四人で前年同期に比べて半減。県内分だけの求人倍率はわずかに一・〇三倍というかつてない厳しさだ。十六日の採用選考開始日を皮切りに採用活動が本格化するが、景気同様に不透明感が強まっている。

(新潟日報)

10・18 TV電話で大学院授業 教員向け公開講座開講

岐阜など他県とテレビ電話回線で結び、教育現場の先生たちが、働きながら大学院レベルの専修免許状を取れる全国初の

公開講座が十七日開講。長岡市の会場には小、中、高校から五十人が参加した。

(新潟日報)

10・22 高校募集学級10年ぶり増加

県教委は二十二日、一九九九年年度の公立高校募集学級計画と、各学校・学科ごとの選抜方法を発表した。来春の中学卒業者が今春に比べ四百三人増加するため、本年度より六学級多い六百二十三学級、募集定員は二百四十人多い二万四千九百人とした。募集学級数が増加したのは八九年年度以来十年ぶり。

(新潟日報)

10・29 私立中の学校五日制は58%

学校週五日を月一回以上実施している私立学校は、小学校八九%、中学校五八%、高校七五%で、前年に比べ一・二ポイントの微増にとどまっていることが二十八日、文部省の調査で分かった。本県ではすべての私立高校・中学で学校週五日制を月一回以上実施している。完全週五日制を導入しているのは、高校十五校のうち一校だけ。月一回が一校、二回が十三校だった。中学校は二校あるが、月一回が一校、二回が一校。

(新潟日報)